

与謝野夫妻の旅程(昭和4年7月22日~8月5日) 本市で訪れた場所を紹介します

- 7月28日 川内高等女学校(現：川内高等学校)で講演
- 7月30日 市比野温泉緑旅館宿泊(現：割烹旅館みどり屋)
- 7月31日 新田神社→可愛山陵→旅館高瀬屋(現太平橋付近)→川内川下り清遊(久見崎まで)
- 8月5日 旅館高瀬屋にて食事

この旅行は鹿児島市や霧島、南薩方面など広範囲にわたっていたんだって!



新聞にも書かれているね

▲与謝野夫妻の本市来訪を伝える記事
(鹿児島朝日新聞 昭和4年7月31日(鹿児島県立図書館蔵))



▲割烹旅館みどり屋
大正時代建築の木造3階建てです。

ほのぼのと 川内川の夕映えの
ばら色をして めぐりたる船
月光に比すべき 川の流るるや
薩摩の国の 川内郷に

与謝野晶子



◀ Google マップ

●西開聞町

われ乗りて 西湖の船に 擬するなり
それより勝る 大川にして

与謝野晶子



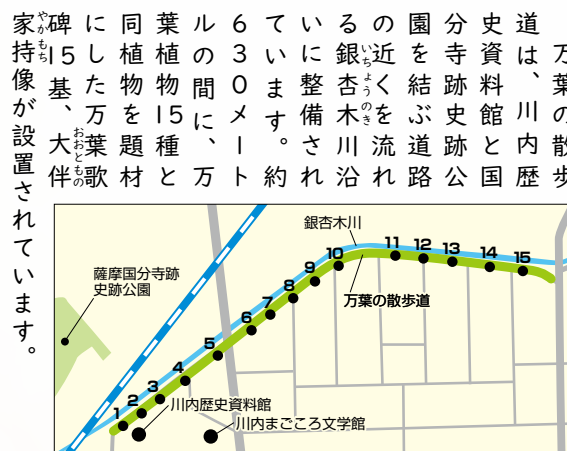
◀ Google マップ

●神田町

与謝野夫妻の歌碑は
こんなところにも



与謝野夫妻の歌碑に限らず、芸術に触れてみてはいかがですか。



万葉の散歩道

他にも歌碑がたくさん!

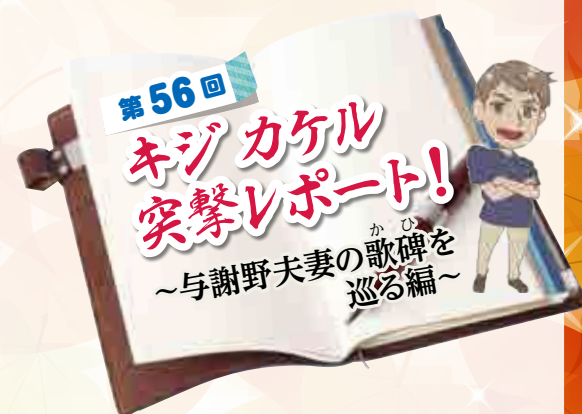
キジカケル!



令和3年度
広報薩摩川内
3月通常版
「人のとなりに」▶



秋といえば、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、そして芸術の秋。川内まごころ文学館では、本市に係のある文学者の展示やその他芸術作品など、さまざまな芸術に触れることができます。その中でも本市にゆかりのある山本實彦。令和3年度広報薩摩川内3月通常版「人のとなりに」で取り上げました。そこで今回は、山本實彦と関係の深い与謝野鉄幹・晶子夫妻に注目し、和歌やその歌碑について紹介します。



与謝野夫妻のプロフィール



提供：川内まごころ文学館
▲与謝野鉄幹(左)と晶子(右)

与謝野夫妻が市比野に

山本實彦は旧川内市出身で、東京で「改造社」という出版社を経営し、数多くの文学者と親交があったそうです。そのため、昭和4(1929)年、与謝野夫妻は彼の招きにより、鹿児島を訪れています。

与謝野夫妻は滞在期間中、市比野温泉を訪れ、現在も旅館として営業されている、割烹旅館みどり屋に宿泊しました。近くを流れる川を詠んだ歌が歌碑に刻まれています。

晶子は滞在期間中、約350首の歌を各地で詠んだのだとか。



▲山本實彦像(大小路町)

川内まごころ文学館の学芸員によると、近くの川を流れる水の音を聞いて、この歌を詠んだんだって!



▲ Google マップ



水鳴れば 谷かと思ひ 遠き灯の
見ゆれば原と 思ふ湯場の夜
与謝野晶子



●樋脇町市比野

歌碑を見に行こう!